

「青少年赤十字 Q & A」

～青少年赤十字のよりよい理解を目指して～



長崎県青少年赤十字指導者協議会
長崎県青少年赤十字指導者協議会高校部会
日本赤十字社長崎県支部

もくじ

Q 1 ● 青少年赤十字とはどんなものですか。……………	1
Q 2 ● 青少年赤十字活動は新学習指導要領の実施により、より重要視されるようになっておりますが、それはなぜですか。……………	2
Q 3 ● 青少年赤十字は、どのような目的や目標を持って活動しているのですか。……………	3
Q 4 ● 青少年赤十字に加盟している小学校・中学校では、実際にどんな活動をしているのですか。……………	4
Q 5 ● 高校生はどんな青少年赤十字活動をしているのですか。特色的なものを示してください。……………	5
Q 6 ● 青少年赤十字は、学校教育にどのように位置付けられて実施されていますか。……………	6
Q 7 ● 青少年赤十字活動を推進することにより、児童・生徒にどのような教育的変容が期待できますか。……………	7
Q 8 ● 青少年赤十字に加盟すると、どんなメリット(教育的効果)があるのでしょうか。また加盟する、しないでは、活動に違いがでますか。……………	8
Q 9 ● 青少年赤十字に加盟しなくとも、奉仕の体験を大切に学校独自で活動すれば、十分効果があると思います。どうして加盟しなければならないのですか。……………	9
Q 10 ● 青少年赤十字に加盟すると、教師の負担が大きくなるのではないかという不安があります。これに本音で答えてください。……………	10
Q 11 ● 他の青少年運動に取り組んでいても、青少年赤十字に重複して加盟することができますか。……………	11
Q 12 ● 青少年赤十字は、生徒指導の充実にどのような働きかけができますか。……………	12
Q 13 ● 青少年赤十字は、幼児教育(低学年を含む)にどのような働きをしますか。……………	13
Q 14 ● 加盟校では、教室にどうしてアンリー・デュナンの肖像を掲げているのですか。……………	13
Q 15 ● 発達段階に応じたボランティア活動の指導はどうすればよいのでしょうか。……………	14
Q 16 ● 青少年赤十字に加盟すると、なぜ、毎年登録更新をするのですか。また、登録式は、どのような意味があるのですか。……………	15
Q 17 ● 赤十字がどうして学校教育にかかわるのですか。……………	16
Q 18 ● よく「赤十字の精神」といわれますが、それはどんなものですか。また、「赤十字精神」は、青少年赤十字活動にどのように生かされていますか。……………	17

Q 1 ● 青少年赤十字とはどんなものですか。

A 1 青少年赤十字活動は、どの子どもの中にもある、苦しんでいる人を見たら「何とかしてあげたい」と思う優しい心を具体的な行動として引き出し、赤十字の基本理念である人道を青少年の一人ひとりが自分自身の価値観として身につけ、世界の平和の維持と実現に寄与することを目指しています。

現在、世界^{※注1}186カ国のネットワークをもつ赤十字運動の中で青少年赤十字は、各国の理解と親善に欠くことのできないものとなっています。

日本全国で^{※注2}12,285校（園）2,850,217人、県内では101校（園）15,547人の児童・生徒がメンバーとして青少年赤十字活動に参加し、「気づき、考え、実行する」という態度目標を基に、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げて、学校を実践の場、教師を指導者として展開されています。

青少年赤十字の活動は、これをしなければならないという決まりはなく、児童・生徒の自主性を尊重し、それぞれの発達段階に応じ、また、個々の問題意識や指導者の創意工夫により、独自の活動が多く展開されています。

少子化が進む中で、青少年を取り巻く社会環境は、援助交際、薬物乱用、学級崩壊などの言葉が表すように、ますます厳しいものとなっています。

そうした中で、青少年の育成は、家庭、学校、地域が一体となって取り組まなければならない課題となっています。

『心の教育』のあり方が話題となる中で、「世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常の学習活動に励むとともに、社会の一員として積極的に他者とのかかわりの中で活動することによって、望ましい人格と精神を自ら形成する」という青少年赤十字が目指してきた活動目標がますます輝きを増してきています。

各加盟校では、自校の教育目標を実現するための手段や心の豊かな人間性の育成、自己教育力の育成など、今日の教育課題に迫る有効な実践として、学校経営に青少年赤十字を有機的に関連づけて実施することになります。

したがって、青少年赤十字はあくまで学校教育に生かすものであって、学校が赤十字の活動を行うわけではありません。どこまでも青少年赤十字の機能を学校教育の目標の実現に生かす活動です。

また、加盟校では、青少年赤十字を機能として生かし、教育効果を確かなものとするため、全教育活動に位置付けたり、児童会・生徒会、クラブ活動、学校行事などの特別活動や教育課程外への活動に位置付けたりして実施しています。

※注1：平成23年3月31日現在

※注2：平成22年3月31日現在

Q 2 ● 青少年赤十字活動は新学習指導要領の実施により、より重要視されるようになっておりますが、それはなぜですか。

A 2 新学習指導要領は、教育基本法や学校教育法の改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」の育成をめざし、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から完全実施されます。

学校教育法第21条では、義務教育として行われる普通教育の目標の中に、

1. 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
 2. 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並び環境保全に寄与する態度を養うこと。
 3. 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- (一部抜粋)

というように明記されており、新学習指導要領がめざすものが青少年赤十字の目的や実践目標、態度目標と共通するものであることは明らかです。

また、「生きる力」の育成についても、

高校までの青少年の時期においては、豊かな人間性や社会性を培うため、学校教育や地域において、社会奉仕体験活動、自然体験活動、職業体験活動など、質量共に充実した多様な体験活動を提供していくことが求められる。子どもたちの豊かな直接体験は、人や社会、自然などへの興味や関心を高め、思考や理解の基盤となるとともに、問題解決的に活動に取り組むことで各教科等で学んだ知識・技能等が生活と結び付き、総合的に働くようになることが期待される。また、様々な対象と直接かかわることは、机の上だけの学習と異なり、大きな成就感や充実感などが得られるとともに、他者との関係の在り方を学び、生き方の探求などにつながり、豊かな心の育成や望ましい人間形成に資するものとする。

というように、「生きる力」の育成における奉仕活動や体験活動の意義が、中央教育審議会答申（H14. 7. 29）の中にも述べられています。

赤十字の基本理念である「人道」の実現は、時代や宗教、人種などを超えた人類の共通した願いであり、青少年赤十字活動のもつ重要性は、ますます大きくなっていきます。

21世紀を担う青少年が自己実現を図る上でも、青少年赤十字活動に参加し、すべての人々との「共生」を図り、すべての人々の「人間の尊厳」を尊重する豊かな人間性を体得してほしいと願っています。

以上のことから、青少年赤十字活動は、新学習指導要領に基づく新教育課程を実施する有効な手段と言えます。

Q3 ● 青少年赤十字は、どのような目的や目標を持って活動しているのですか。

A3 ◎青少年赤十字の目的

青少年赤十字は、青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中で、望ましい人格と精神を自ら形成することを目的としています。

そして、だれの胸の中にもある「みんな同じ人間どうし」という人類愛の心“赤十字の精神”を青少年が自覚し、日常生活に生かすことが青少年の人格形成に役立ち、ひいては世界の平和、人類の福祉に貢献できる児童・生徒を育てることにもなります。

これが青少年赤十字のねらいです。

◎青少年赤十字の実践目標

青少年赤十字の目的を達成するためには、青少年にも分かりやすい具体的な実践目標が必要になりますので、次の三つが掲げられています。これは、世界の青少年赤十字に共通したものです。

(1) 健康・安全

生命と健康を大切にする。

(2) 奉仕

人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する。

(3) 国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う。

この三つの実践目標は、青少年赤十字の目的に迫るための道しるべであり、目的そのものではありません。したがって、学校教育に青少年赤十字を生かすための活動を、それぞれの学校で、その実情に即し、教師と児童・生徒の創意や工夫により計画、実践することが大切です。



Q 4 ● 青少年赤十字に加盟している小学校・中学校では、実際にどんな活動をしているのですか。

A 4 青少年赤十字に加盟したら、これだけは実施しなければならないというものはありません。各学校の主体的な取り組みが大切で、地域の実情や児童・生徒の実態に応じて、もっとも効果的な活動を選択して実施しています。

以下の事例を参考にして学校に有効な活動を考えてみてください。なお、学校行事の精選という観点からも配慮しておく必要があります。

- 1 《学 習》 青少年が赤十字の精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年赤十字の基本的な事柄について理解する。
 - ◎青少年赤十字登録式（事前学習を含む） ◎引き継ぎ式 ◎青少年赤十字集会
 - ◎青少年赤十字週間 ◎トレーニング・センターの実施 ◎V・S（ボランティア・サービス）カードについて

- 2 《健康・安全》 自分のからだは、自分で守ろうとする意識を育てるとともに、生命と健康を大切にすることを養う。
 - ◎健康安全プログラム（救急法等の勉強） ◎健康生活習慣化への取り組み
 - ◎自発的な体力づくり ◎交通安全教室 ◎校内安全点検 ◎少年消防クラブの活動

- 3 《奉 仕》 人間として社会のため、人のために尽くす活動を通して、ボランティア精神を養う。
 - ◎V・Sカードを使って、「奉仕」の日常化、継続化の指導 ◎朝の自主清掃
 - ◎地域クリーン運動への参加 ◎施設訪問（養護老人ホーム等）◎空き缶やごみ拾いを取り入れたハイキング ◎地域のお年寄りとの交流 ◎一円玉募金
 - ◎花いっぱい運動

- 4 《国際理解・親善》 広く世界の青少年を知るとともに、思いやりの心を持って人に接し、仲良く助け合う精神を養う。
 - ◎親善アルバムやトピック・アルバムの作成、交流 ◎グリーティング・カードの作成 ◎青少年赤十字交歓会、ホームステイ ◎海外たすけあい募金

Q 5 ● 高校生はどんな青少年赤十字活動をしているのですか。
特色的なものを示してください。

A 5 高校の青少年赤十字の特色は、任意で集まってくる生徒による部活・生徒会形式がほとんどであり、そのため目的意識を持って活動するものが多いということです。

したがって、指導者（青少年赤十字部担当の教師）は、目的を持って集まってきたメンバーの意欲を生かし、人数に応じた活動プログラム例を提示すればよいと思います。また高校の青少年赤十字の活動においては、より自由にのびのびと動け、充実感を味わえる場を設けるとともに、社会の目を開いて行く機会を多くして行くことが大切です。

青少年赤十字のメンバーになったら、「これだけの活動をやらなければならない」という縛りは何もありません。以下の活動事例は、メニューと考えて参考にしてください。

- ◎施設訪問（老人ホーム、乳児院、障害者福祉施設…）
- ◎校内や街頭での募金活動（国内義援金、海外救援金、あしなが募金…）
- ◎校内献血（献血、呼びかけ、世話）、献血ルームの手伝い
- ◎校内清掃、学校周辺道路清掃
- ◎養護学校との交流
- ◎花いっぱい運動
- ◎外国との親善交歓（親善アルバム、トピック・アルバム…）
- ◎一円玉募金活動
- ◎一人暮らし老人との交流（もちの配布）
- ◎身障者との交流（風船パレー、盲人マラソンの手伝い）
- ◎病院ボランティア（入院患者＝児童との交流）

高校生青少年赤十字メンバーは、それなりの目的意識をもって集まってきてはいますが、その意志は、それほど固いものではない生徒もいます。それを支えるのが、青少年赤十字の「ちかい」です。「ちかい」は、自分が自分の主人公である限り、いかに生きるべきかを自ら問い、自らに課することの意味が含まれています。

Q 6 ● 青少年赤十字は、学校教育にどのように位置付けられて実施されていますか。

A 6 青少年赤十字は、学校教育活動の中に生かされるものですから、当然それぞれの学校の教育計画に基づいて実施されます。

その場合、青少年赤十字を教育活動そのものとして把握すると、青少年赤十字は機能であり、また教育課程内及び教育課程外とに位置付けた領域で明らかにすることができます。

《青少年赤十字を機能としてみる》

赤十字の精神や機能、青少年赤十字の活動を学校教育のあらゆる場面に生かし、教育効果を高めていこうとする取り上げ方で、学校目標の実現や経営方針に取り入れて、子どもの心をゆさぶり育てようとするものです。特に、「気づき、考え、実行する」という活動のあり方を組み入れた活動が、多く見られます。

《青少年赤十字を領域で明らかにする》

・教育課程に位置付ける

特別活動においては、児童会・生徒会活動（例 児童集会・青少年赤十字委員会）、クラブ活動（例 青少年赤十字クラブ）、学校行事（例 集会活動、登録式、奉仕活動）に位置付けて指導できます。各教科、学級活動においては、青少年赤十字を直接この領域に位置付けることはできませんが、教材や題材として取り上げるなど、関連的指導の中で赤十字の精神を養い、青少年赤十字活動について考えさせることができます。

・教育課程外へ位置付ける

教育課程外活動は、学校裁量で効果的に実施することができます。例えば、総合的な学習の時間、部活動、始業前や放課後の時間に、教師の指導のもとで青少年赤十字活動が行えます。

課程外での活動は、教科等の枠に縛られず、創意を生かした活動を思い切って実施できるともいえるわけです。

青少年赤十字の位置付けを考えるときに大切なことは、青少年赤十字を部分的にとらえるのではなく、学校の教育目標を明確にし、その実現の一環として青少年赤十字を総合的にとらえることが大切になります。

Q7 ● 青少年赤十字活動を推進することにより、児童・生徒にどのような教育的変容が期待できますか。

A7 青少年赤十字活動を推進することにより、即効的かつ全面的な児童・生徒の変容を期待することには無理がありますが、人道・博愛（やさしさと思いやり）の赤十字精神を学校教育目標の具現化に生かすことにより、児童・生徒の心を揺さぶり、新鮮な感動を呼び起こすことが十分期待できます。

◎だれでもが持っているやさしさや思いやりを奉仕という実践に現すことにより、人のために尽くすことの大切さや、役立ったという喜びを味わせることができます。そして、一人ひとりのこの実践は全校に広まり、学校中が温かい雰囲気になります。

◎異学年や他校との交流を通して、友情の輪が広がります。特に、その中に障害を持つ友達や養護学校などとの交流を計画すると、理解が一層深まります。

◎一人暮らしのお年寄や養護老人ホームなどの施設への訪問活動は、児童・生徒にふさわしい奉仕を体験させる場となるとともに、地域との結びつきを深める機会となります。

◎「気づき、考え、実行する」の青少年赤十字活動の基盤は、常に児童・生徒の内面に働き、自発性と積極性を育てます。

◎実践目標や青少年赤十字バッジは、加盟校同士の連帯感の高揚に役立ち、特に小規模校では、「大きな学校と同じことが、いや、もっとすばらしいこともできる」の自信となり、すべての教育活動に波及します。

◎「教師が変われば、子どもも変わる」、青少年赤十字の指導者としての教師は、赤十字精神を心のより所に生徒の理解を常に心がけ、その指導態度は温かく児童・生徒を包むことと思います。

これらのことが、青少年赤十字が生徒指導でも効果的であるということの根拠でもあるのです。



Q 8 ● 青少年赤十字に加盟すると、どんなメリット(教育的効果)があるのでしょうか。また加盟する、しないでは、活動に違いが出てきますか。

- A 8** ◎加盟すると、毎年登録式を行います。一人ひとりが登録票へ署名し、「ちかい」をたて、バッジをつけ、青少年赤十字の旗のもとに、「世界につながる青少年赤十字の一員である」という誇りとともに、目的意識が生まれ、各自の胸の中に実践意欲がみなぎります。この実践意欲こそ、各校の教育目標の具現化に強く作用し、人格形成に役立ちます。
- ◎青少年赤十字は、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の実践目標とともに「気づき、考え、実行する」という態度目標を持っています。青少年赤十字のメンバーは、このような具体的な活動の方向を一人ひとりが自覚しているため、学校全体の活動が活性化し、次への主体的実践が期待できます。
- ◎加盟校では、赤十字救急法等の指導員による健康安全プログラム（救急法、水上安全法、健康生活支援等）の講習を受けることができ、もしものときのケガなどから自分を守り、人のために役立つ技術を身につけた児童・生徒が育ちます。その他、地域赤十字奉仕団や赤十字無線奉仕団の指導による防災学習も受講できます。
- ◎世界に組織を持つ赤十字は、ハイチ・コレラ救援、中国豪雨災害救援、チリやハイチの大地震救援・復興支援及び長期的な人道ニーズへの取り組みとして、ケニア地域保健強化事業やバングラディッシュ、モンゴル、ネパールにおける青少年教育等支援事業などを行っています。
- ◎青少年赤十字は学校教育活動であり、指導者は学級担任など教師ですから、各学校の教育計画に位置付けて実施し、赤十字は教育効果を高めるための資料を提供します。

ち か い

「わたくしは、青少年赤十字の一員として、心身を強健にし、人のためと郷土社会のため、国家と世界のためにつくすことをちかいます。」

ちかいは、「わたしたちは」ではなく、「わたくしは」になっていることに留意してください。すなわち、ちかいを立てるということは、他からの指示によって動くのではなく、自らの意思によって活動を起こすのだ、ということです。これは、新教育課程の基準改善のひとつである「自ら学び、自ら考える力を育成する」と同じ考え方です。

Q 9 ● 青少年赤十字に加盟しなくとも、奉仕の体験を大切に
して学校独自で活動すれば、十分効果があると思います。
どうして加盟しなければならないのですか。

A 9 奉仕については、新学習指導要領において、「道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮されなければならない。」と示されています。ボランティアは活動を通して、地域社会の一員であることを自覚し、互いに支え合う社会の仕組みを考えるうえで意義のあることであると同時に、単に社会に貢献するというだけでなく、自分自身を高めるためにも必要なことであり、大切なことであるという意味で、大きな教育的意義があると考えられます。したがって、活動が目的ではなく、活動のよりどころとなる精神こそが大切です。

青少年赤十字は、「みんな人間どうし」の赤十字精神に基づき、それぞれの胸の中にある「思いやりの心」を、奉仕という形に現します。したがって、青少年赤十字活動として行う奉仕は、活動のよりどころがはっきりしています。

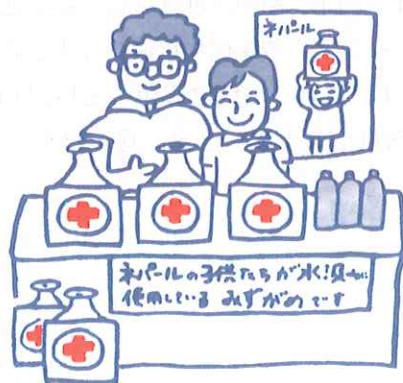
「人のためと郷土社会のため、国家と世界のために」という共通な目標を持ち、青少年赤十字の仲間意識をもって、活動に取り組むことができます。

青少年赤十字は、学校教育活動ですから、各学校の先生により、発達段階に応じた奉仕の取り組みの指導がなされます。また「気づき、考え、実行する」の活動基盤は、「やらされる活動」から脱皮し、メンバー一人ひとりの自発的な活動として、奉仕の心を育てます。

「青少年赤十字指導者手引き」など青少年赤十字の豊富な資料により、発達段階や学校の地域性に応じた、創意ある活動プログラムを参考にすることができます。

また、赤十字奉仕団など地域社会の方々の協力により、地域に根ざした活動が容易になります。

すなわち、加盟することによって、はっきりした目的意識による活動ができやすいという効果があります。



Q10 ● 青少年赤十字に加盟すると、教師の負担が大きくなるのではないかという不安があります。これに本音で答えてください。

A10 青少年赤十字は、豊かな人間性を育成し、自校の学校課題に迫るための教育方法であり、学校の中に余分なものを持ち込むものではありません。

学校課題を解決するために、従来から行ってきた教育の営みを、青少年赤十字を活用して教育効果を高めるという視点で見直し、学校経営に位置付けるものです。

したがって、青少年赤十字を行事の面だけでとらえるのではなく、日々の営みの中で、教育機能としてとらえることが大切です。つまり、あるときは特別活動（学校行事、児童会・生徒会活動、学級活動など）に領域として青少年赤十字活動を位置付けたり、あるときは子どもの心を育てる教育活動に、機能として位置付けたりして実施することになります。

青少年赤十字は学校教育であり、指導者は先生（学級担任など）ですから、教育計画に位置付け、学校あげて全員の先生で取り組みます。生徒指導が指導計画に基づき、全教職員で取り組むのと同じです。

青少年赤十字を取り入れて活動を行うとすれば、何もしない場合より、負担が増えるのは当然でしょう。しかし、その負担増に比して、なお余りある教育効果が得られるものと思います。

「命」を守る「赤十字マーク」

赤十字マーク、1863年10月ジュネーブに16カ国36人の代表が集まり、赤十字の基礎を作った最初の国際会議で決まったものです。

赤十字マークは、「ジュネーブ条約」及び国内法により赤十字に関係ある人や物を表示するためのみに用いることができます。

「赤十字マーク」は、初めて赤十字の構想を明らかにしたスイス人のアンリー・デュナンに敬意を表すために、スイス国旗の配色「赤地に白十字」を逆にして「白地に赤十字」を使用しています。しかし、イスラム教国の中には、「十字はキリスト教を連想させる」として、赤十字の変わりに「赤新月（白地に赤色の三日月）」を使用していますが、使用に当たっての条件、効力等は「赤十字」と全く同一です。

Q11 ● 他の青少年運動に取り組んでいても、青少年赤十字に重複して加盟することができますか。

A11 それぞれの団体には、それぞれの目的があり、活動内容も様々ですが、健全な青少年を育成する点では共通であるといえます。

要は、参加の目的を明確に把握し、子ども側、学校側でそれが必要と判断されれば、重複して取り組むことは、なんら差し支えないといえましょう。

また、社会福祉教育、小さな親切運動などは、青少年赤十字活動の奉仕の一領域として考えることもできます。このことによりそれぞれの活動が、より具体的になるという利点もあります。

したがって、他の青少年運動に取り組んでいても、青少年赤十字に加盟して、矛盾なく活動することができます。

なお、青少年赤十字は学校の教育活動そのものであり、その学校の先生が指導者となり、活動の場を主として学校内に求めるなど、他の団体との違いがあります。

☆人 道 (Humanity)

国際赤十字・赤新月運動（以下「赤十字・赤新月」という。）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的及び国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月はすべての国民間の相互理解、友情、協力及び堅固な平和を助長する。

☆公 平 (Impartiality)

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位又は政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月は、ただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、最も急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

☆中 立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時にいずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的又は思想的性格の紛争には参加しない。

☆独 立 (Independence)

赤十字・赤新月は独立である。各国赤十字社・赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるようその主体性を保たなければならない。

☆奉 仕 (Voluntary Service)

赤十字・赤新月は、利益を求めない奉仕的救護組織である。

☆単 一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字社・赤新月社しかありえない。赤十字社・赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

☆世 界 性 (Universality)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社・赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

Q12 ● 青少年赤十字は、生徒指導の充実にどのような働きかけができますか。

A12 青少年赤十字は、「みんな同じ人間どうし」、「われ、人と共にあり」という赤十字の精神を受けて、「気づき、考え、実行する」を態度目標としています。

一方、生徒指導のねらいは、どういう行動が正しいか自分で考え、判断し、実行する児童・生徒を育てること、すなわち「自己指導の力」を育てることです。

これは、青少年赤十字の目指すものと全く同じです。

物が豊かで物質的に充足された環境にある今の子どもたちは、我慢することやいたわりといった他への思いやりの心まで失いつつあります。青少年赤十字は、子どもたちの心のオアシスとなり、活動を通して子どもたちの心に感動を呼び起こす、積極的な生徒指導そのものです。

加盟校では、赤十字精神に支えられ、子どもと共に悩み、共に喜ぶことのできる指導者（教師）のもとで、具体的で楽しく、しかも有意義な活動が用意されます。児童・生徒がその活動に主体的に参加することにより、自己実現が図られ、楽しさいっぱいの学校生活になります。そして奉仕活動や地域のお年寄りとの交流などを通して、なくてはならない自分、人のために役立っている自分に気づき、より健全な毎日を過ごせるようになります。

また、青少年赤十字は、いわゆる「非行化防止」にも機能します。燃えている火を直ちに消し止めるような特効薬的な働きを、青少年赤十字に求めることは無理としても、児童・生徒の生き方にかかわるところでしっかりと作用するといえます。

低学年から育てた「みんな同じ人間どうし」からくる他者への「やさしさ」は、思いやりの行動となって好ましい人間関係を醸成し、弱い者やハンディをもつ友達をいたわり、助け合う姿があちらこちらに見られる学校へと変容して行くとします。

また、楽しい充実した学校生活は、学校嫌いで不登校児童・生徒を出さないことにもつながります。



Q13 ● 青少年赤十字は、幼児教育(低学年を含む)にどのような働きをしますか。

A13 「鉄は熱いうちに打て」という言葉があります。純真で、しかもひたむきな幼児期に、赤十字の精神に触れさせることは、望ましい人格形成の大きな基礎を養うものです。小学校でも、一年生は、学校で一番弱いものとして大事にされ、甘やかされがちです。また自分中心に考え、回りのことが見えていない状態が続きます。

この時期に、登録式で青少年赤十字の一員として迎えられ、バッジをつけ、署名することにより、小さいながらも青少年赤十字メンバーの自覚と、何か役立ちたいという意欲が生まれます。

望ましい習慣の育成は、幼児期が特に重要であります。そのとき青少年赤十字の目標の一つ「健康・安全」の実践は、基本的な生活習慣の定着に効果的な働きをするものと思われれます。

また、思いやりの心を形に表す「奉仕」の実践は、この時期には抵抗なく受け入れられ、その積み重ねは大きくなってからのボランティア活動の意欲へと成長します。

幼児期の指導で、特に配慮しなければならないことは、青少年赤十字への保護者に対する理解を得ることや、活動への協力を依頼することなどです。

Q14 ● 加盟校では、教室にどうしてアンリー・デュナンの肖像を掲げているのですか。

A14 赤十字の父と言われるアンリー・デュナンの理念と業績は、深い人類愛に基づくものであり、いついかなる時にも、そしてすべての人に認められる世界性を持つものです。加盟校では、このデュナンの生き方から、子どもたち自らが日々の実践をとおして一生懸命に赤十字精神を学びます。デュナンはこんな子どもたちをやさしく見守り励ましてくれます。

加盟校では、教室のコーナーに、「デュナンの肖像」、「ちかい」、「一人ひとりの署名」などを掲示し、活動のよりどころとしています。

なお、青少年赤十字は学校教育として行われるものですから、デュナンの肖像も一資料であり、常掲するか、しないかは学級経営の中で考えるものです。

Q15 ● 発達段階に応じたボランティア活動の指導はどのようにすればよいでしょうか。

A15 次の問いをどこかの段階で一度は投げかけてみるとよいと思います。

あなたの目の前で幼児が川に落ちた。

「そのときあなたはどうする？」「それはどうして？」

この問いかけで、だれもがもっている善意（やさしさ）の確認をさせます。

◎ボランティア活動の基本は、

(1) だれもがもっている善意（やさしさ）を、素直に行動として表す。

(ボランティアの心の自己への積み上げ)

(2) 一人ひとりの善意の行動を、集団で認め、支え、さらに大きな活動とする。

(ボランティア活動の組織化)

◎ボランティア活動の発達段階的指導

いつどのような指導をしなければならないということはありませんが、発達段階に見合った指導がされたとき、ボランティアの心はスムーズに子どもの中に積み上げられ、仲間へと広がり、さらに深まるでしょう。

ボランティア活動は、自発的なもので他から強制されるものではないと言われます。まさにそのとおりですが、初めから「無」の状態で心が育つわけではありません。ある時期には指導者（教師）と一緒に活動する中で、教え、気づかせることが大切です。このボランティアの心の種を蒔く時期は、小学校の低学年までとされ、「V・Sカード」による指導が効果的です。

(1) まわりにいる大人が教え、称揚してやる段階

・ほめてもらってうれしかった気持ちを、「快感」として積み重ねさせる。

(2) もっと効果的な方法があることを気づかせる段階

・人のために、より役立った喜びを実感させる。

(3) 他の人にも呼びかけて広げていく段階

・一人の力は小さくとも、仲間が集まればこんなに大きなことができたという喜びをみんなで確かめ合う。

(4) 「10代のボランティア」として成長させる段階

・自分の生活時間を工夫し、活動の時間を生み出させる。

・なげなしの小遣いはたいたり、自分の欲求を我慢したりしてでも、活動の費用を生み出し、また募金に応じられる。

・鍛えた若い体と柔軟な頭を、人のために喜んで役立てることができる。

また一人でも活動ができる。

・活動をとおし、これは自己満足ではないか、偽善ではないかという懷疑が生じた時、それと正面から取り組み、解決して自己のボランティア観を確立していく。

Q16 ● 青少年赤十字に加盟すると、なぜ、毎年登録更新をするのですか。また、登録式は、どのような意味があるのですか。

A16 学校では年度が変わると、通常、次のような変動があります。

- ①学年が進み、卒業や入学により構成メンバーに変動がある。
- ②学級や委員会やクラスの編成替えが行われる。
- ③教職員（指導者）の異動がある。

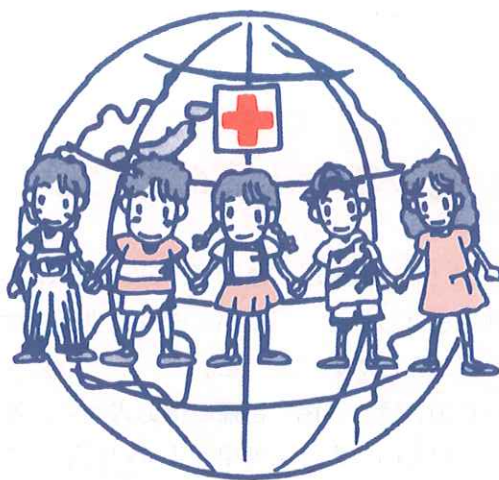
青少年赤十字は学校で行われる教育活動ですから、その変動を受けて今年度の教育課程を編成し、青少年赤十字を教育活動に位置付けて実施することになります。

これを受けて、メンバーの構成や指導責任者（校長）、担当主任教諭などを記入した登録申込票を日本赤十字社長崎県支部に送付し、登録更新の手続きが完了します。

このことにより、各学校への資料や情報の提供や連絡がスムーズになります。

「今年も学校教育の中に青少年赤十字社を取り入れて、子どもたちの豊かな心を育てよう。」という教職員間の意思統一と、新一年生を迎えて、メンバーの新たな自覚を促すために、加盟校では毎年、青少年赤十字登録式を行います。

登録式は、年度初めの4月又は赤十字強調月間の5月に、学校行事として実施する学校が多いようです。



Q17 ● 赤十字がどうして学校教育にかかわるのですか。

A17 青少年赤十字は、各国の赤十字社がその重要な社業の一つとして取り上げているものですが、一方、青少年が自己の人格形成に役立つと判断して、学校が自主的に取り入れている教育活動でもあります。

赤十字はだれの胸の中にもある“苦しむ人を見たらなんとかしたい”という気持ちや、その素直な実践が結集して組織されたのが始まりです。今ではそれが発展し、単に個人的な苦痛や死の場合に限らず、この気持ちをあらゆる人間関係の上に及ぼして、人類の福祉、世界の平和のために貢献していくための世界的な組織となりました。

青少年赤十字は、この赤十字の願いが青少年にも理解され体得でき、進んで実践活動に移せる機会を与えるものとして設けられたものです。

しかし、それは赤十字が主導的に生み出したというよりは、子どもたちの健やかなそして豊かな心身の成長をひたすら願っていた学校の先生方の、ひたむきな愛情の中から生まれたという歴史的な事実が出発点になっています。

そして、この事実が現在でも学校との関係をもつ要因となっているのです。

このような結びつきは、また双方に無理のない組織や運営の方法が当然必要となります。ですから青少年赤十字を取り入れようとする学校は、その学校の教育方針に基づいて自主的に採用し、実情に即して計画し、実践することになっています。

したがって、青少年赤十字は、その学校の先生を指導者とし、自校の教育方針や指導計画により指導されます。

日本赤十字社は、この青少年赤十字に対し、その活動に必要な知識、技術、資料及び赤十字の組織を利用する機会を提供します。

青少年赤十字のおこり

第一次世界大戦の時（1914～18年）、カナダ、アメリカ、オーストラリアの学校の子どもたちと先生は、戦場となったヨーロッパの国々の少年少女や傷病者を慰め、励ますために、慰問品を赤十字に託して送りました。

学校の先生や子どもたちの要請と戦場で苦痛に悩む人々に、安らぎを与えたいという赤十字の願いは、こうして出会い、大きな効果を上げた経験をもとに、平和時における赤十字事業の一環として出発したのが青少年赤十字社であります。

青少年赤十字は、だれの心の中にもある「思いやりの心（赤十字精神）」を、子どもたち自身が子どものときから「奉仕＝ボランティア」という形で、毎日の生活の中に生かして行く活動です。

Q18 ● よく「赤十字の精神」といわれますが、それはどんなものですか。
また、「赤十字精神」は、青少年赤十字活動にどのように生かされていますか。

A18 赤十字は「人の命の尊さ」を守って約150年活動し続けてきました。この間、一貫して流れている「赤十字精神」というのは、特別なものではなく、だれの心の中にもある人道・博愛の心「みんな同じ人間どうし」を「われ、人と共にあり」という連帯感に発展させ、奉仕という具体的な行動として実践する心です。

分かりやすく言うとすれば、「あなたの『思いやり』を、みんなのために役立たせる心」ということになります。

青少年赤十字は、子どもたち自身が、赤十字精神を毎日の生活に生かし実践する活動です。

ひいてはこれが、豊かな人間性を培う「心の教育」になり、望ましい人格の形成に役立ちます。

また、世界に通じる共通の価値・原則をもつ赤十字ですから、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人づくりに役立ちます。

青少年赤十字と学校教育との関係について文部科学省の考え

青少年赤十字の活動と学校教育との関係については、教育行政当局の一定した見解がなく困難を感じていたが、東京都教育庁から昭和41年に文部省（現文部科学省）に照会したところ、次のような回答があった。

（昭和41.1.12 委第7の3号）

（問1） 公立の義務教育諸学校が児童生徒を青少年赤十字へ加盟させることができるか。

答 日本青年赤十字はその沿革、目的、性格およびその活動の実情より見て青少年の健全育成活動を行う団体と認められるので、公立義務教育諸学校においても、児童生徒が保護者の同意を得てこれに加盟するよう、教育的配慮のもとに指導することはさしつかえない。

（問2） 公立の義務教育諸学校が学校教育の中で青少年赤十字が提供する教材を利用できるか。

答 校長が学校教育の目的を達成する上に有効であると判断した場合は、日本青少年赤十字が提供するものを学校教育の教材として利用することはさしつかえない。この場合、学校管理規則の定めるところに従って教育委員会の承認を受け、または届出をなすことが必要である。



もっと知りたい方のために…

赤十字の各事業について、青少年赤十字事業について、さらに詳しくお知りになりたい方は、下記までお問い合わせ下さい。

日本赤十字社長崎県支部

〒852-8104 長崎市茂里町3番15号

tel 095-846-0680 fax 095-846-0681

<http://www.nagasaki.jrc.or.jp>